

富士山静岡空港の収支の概要

(文化・観光部空港振興局)

1 要 旨

富士山静岡空港は、道路や港湾と同様、県勢発展に不可欠な社会資本として整備したものであり、空港の利用が県民の利便性向上や経済活動に寄与できるよう利活用促進に努めている。

平成 22 年度から、空港収支に係る情報の透明性を確保する観点で、国に準じて公表している空港管理運営に係る収支について、平成 26 年度の収支状況を取りまとめたので報告する。

2 概 要

(1) 空港管理運営に係る収支

- ・平成 26 年度は旅客ターミナルビルを県有化したことに伴い、空港基本施設と旅客ターミナルビルの一元的な管理運営に係る収支を試算している。
- ・着陸料等収入額は 2 億 2 千 9 百万円となったのに対して、空港の管理運営（人件費を含む）に係る支出額は 7 億 2 千 7 百万円となり、収支差額 4 億 9 千 8 百万円は一般財源を投入している。
- ・一般財源投入額は、平成 25 年度決算に比べて、2 千万円減少したが、この主な要因は、滑走路等の施設の点検・補修などの支出が増加した一方で、旅客ターミナルビル等を県有化したことに伴う利用料金納入金等の収入が増加したことなどによる。

(単位：百万円)

区 分	26 年度 a	25 年度 b	差引額 (a-b)	増減率 (%)
収 入	2 2 9	1 4 7	8 2	5 6 %
支 出	7 2 7	6 6 5	6 2	9 %
収 支	△ 4 9 8	△ 5 1 8	2 0	4 %

(2) その他の収支の試算

空港管理運営及び空港整備に係る企業会計の考え方を取り入れた収支、また、公共施設等運営権導入に向けての指標となる EBITDA（県の企業会計の考え方を取り入れた収支と富士山静岡空港㈱の収支を合算）の試算結果は別紙のとおり。

(3) 今後の取組

安全・安心の確保を前提に可能な限り管理運営に係る支出の削減に努めるとともに、増便や就航路線の拡大による着陸料収入の増加、未利用土地の活用等による収入確保に取り組むことで、収支の改善に努めていく。